

1 人 口

(1) 亀岡市の人口

亀岡市の人口は、92,399人

平成22年10月1日現在の亀岡市の人口は、92,399人となり、前回調査（平成17年国勢調査—以下同じ）に比べ1,597人（1.7%）減少しました。（図－1、第1表参照）

人口の推移 ～50年間で2.2倍～

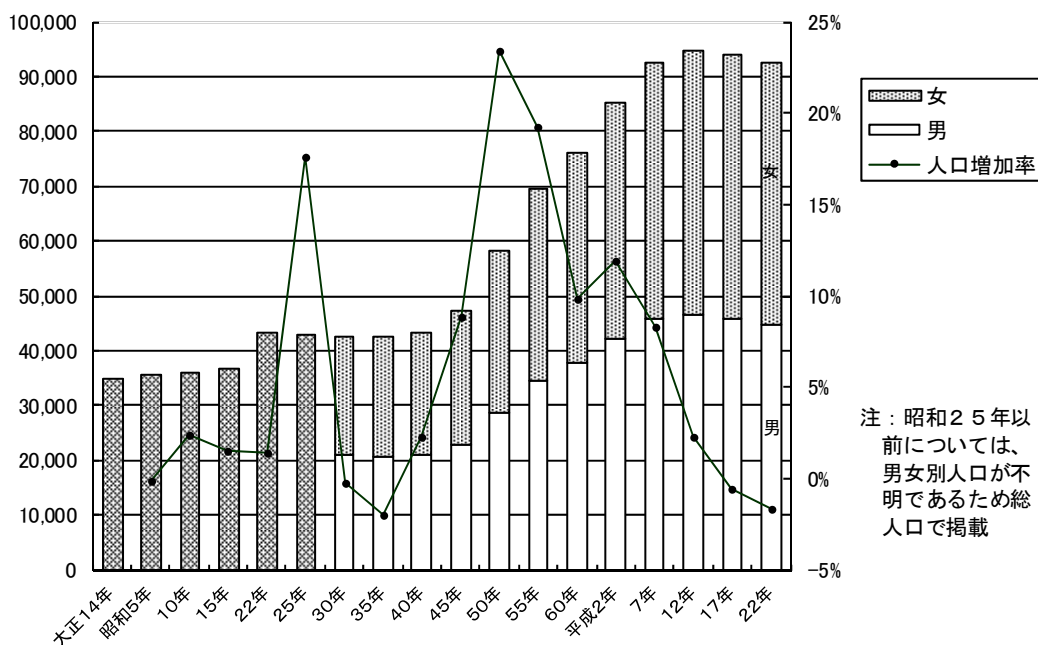
亀岡市の人口は、大正9年の第1回調査以来85年間で2.7倍、市制施行時の昭和30年第8回調査以来50年間で2.2倍になりました。人口増減率は、今回調査が△1.7%で、昭和35年から上昇傾向にありましたが、昭和50年調査の23.4%をピークに平成2年調査を除いて、低下傾向にあります。（図－1、第1表参照）

男女別人口 ～男女数の差、引き続き拡大～

人口を男女別にみると、男性44,889人、女性47,510人となり、前回調査に比べ、男性995人（2.2%）、女性602人（1.3%）の減少となっています。

人口性比（女性100人に対する男性の数）についてみると、94.5%となり、前回調査の95.4%に比べて0.9%低下しています。（図－1、第1表参照）

図－1 亀岡市の男女別人口及び人口増加率の推移

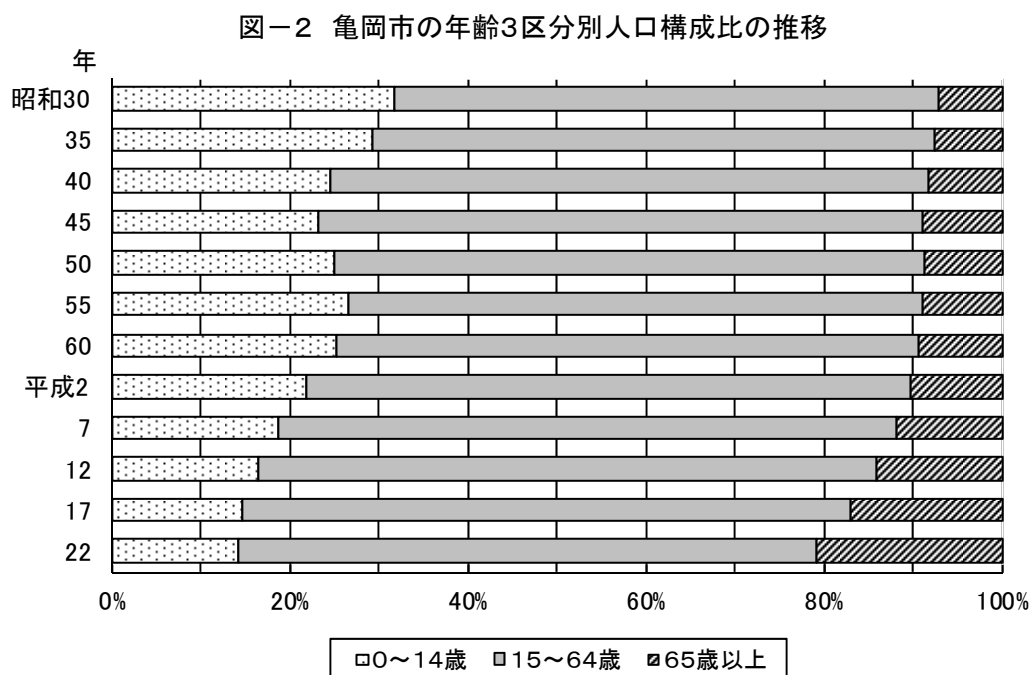


年齢3区分別人口 ～65歳以上人口は総人口の20.6%～

人口を年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が13,018人、15～64歳の生産年齢人口が59,738人、65歳以上の老年人口は19,080人で、全人口に占める割合はそれぞれ14.1%、64.7%、20.6%となっています。

年齢3区分別人口を前回調査と比べると年少人口は795人減少（減少率5.8%）、生産年齢人口は3,929人減少（減少率6.2%）しているのに対し、老年人口は3,819人増加（増加率20.6%）となっており、老年人口は著しく増加しています。この結果、年齢3区分別割合は前回調査（年少人口14.7%、生産年齢人口67.7%、老年人口16.8%）に比べて、年少人口が5.8%、生産年齢人口は6.2%減少、老年人口は20.6%増加しています。

（図－2、第2表、第3表参照）



注：人口は年齢不詳が含まれているため、年齢3区分別人口の合計と一致しない。

(2) 亀岡市町別・地域別人口

町別人口 ～東つつじヶ丘で高い人口増加率～

町別に人口をみると、亀岡地区の20,582人が最も多く亀岡市全体の22.3%を占めていますが、この割合は昭和60年以降縮小しています。以下、篠町18,508人（市全体の20.0%）、大井町の8,691人（市全体の9.4%）と続いています。

この5年間で最も人口が増加したのは、篠町の817人で、続いて千代川町の249人、東つつじヶ丘の204人で、増加率が大きいのは、東つつじヶ丘の6.7%、篠町の4.6%、千代川町の3.5%となっています。

逆に最も人口が減少したのは、亀岡地区の468人、続いて畑野町の463人、曾我部町の320人で、減少率が大きいのは畑野町の16.4%、東別院町の14.6%、旭町の12.9%となっています。

（第15表、第16表、第17表、第21表参照）

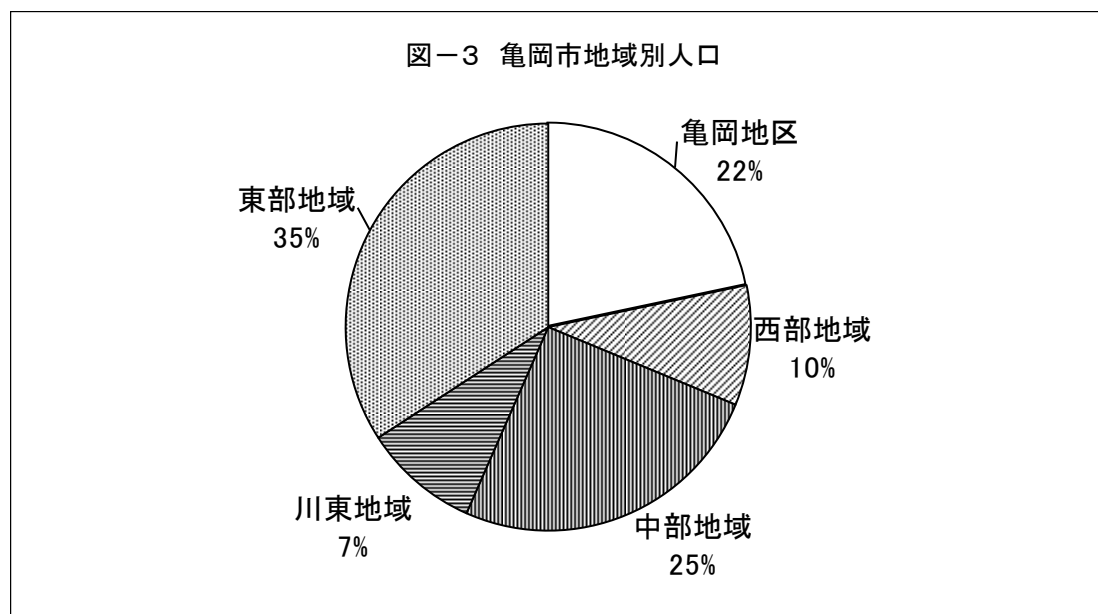
地域別人口 ～市人口の3割が東部地域に集中～

地域別にみると、東部地域の32,473人が最も多く亀岡市全体の35.1%を占めています。続いて中部地域の24,103人で26.1%、亀岡地区の20,582人で22.3%と続いています。

人口を前回調査と比較してみると東部地域のみが増加しており、増加率は2.9%となっています。

逆に減少率が大きいのは西部地域の9.8%、川東地域の9.5%となっています。

（図－3、第18表参照）

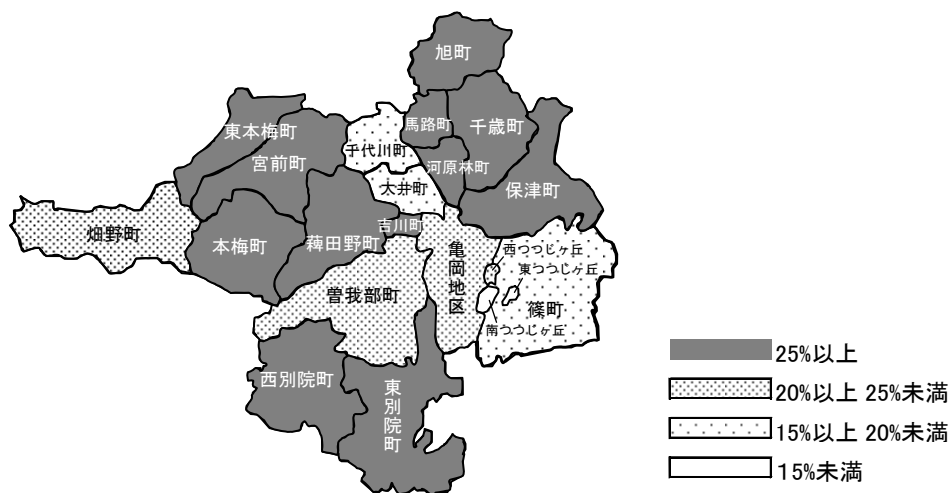


年齢別人口割合 ～川東地域で高い老年人口割合～

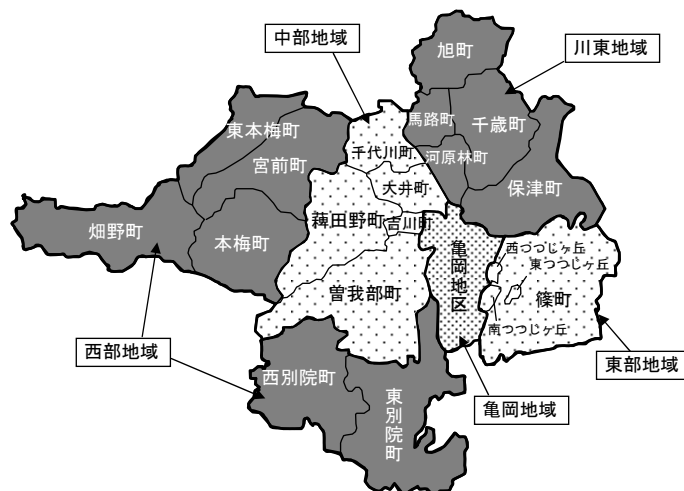
年齢3区分別人口を町別にみても、老年人口割合が最も高いのは、河原林町の34.2%で、次いで保津町の33.5%、本梅町の31.6%、旭町、千歳町の31.2%と続いており、地域別では川東地域で31.1%と高くなっています。なお、老年人口割合が最も低いのは、南つつじヶ丘の12.1%です。

一方、年少人口割合が最も高いのは東つつじヶ丘の20.0%で、次いで大井町の17.4%、千代川町の17.4%となっています。（図－4、図－5、第19表、第20表参照）

図－4 町別老年人口割合



図－5 地域別老年人口割合



【参考】年齢3区分別人口

- 年少人口・・・14歳以下
- 生産年齢人口・・・15歳～64歳
- 老年人口・・・65歳以上

2 世帯数

(1) 亀岡市の世帯数

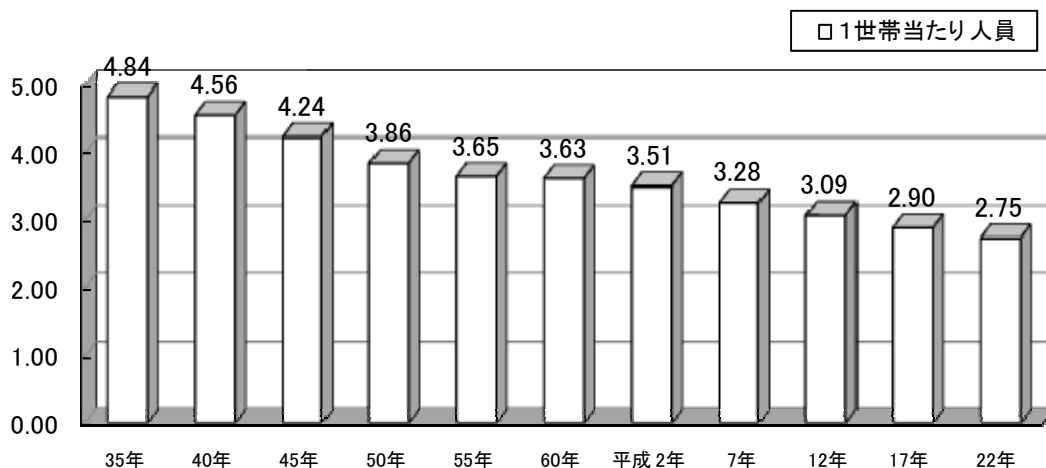
亀岡市の世帯数は、33,625世帯

平成22年10月1日現在の亀岡市の世帯数は、33,625世帯となっており、前回調査に比べると1,170世帯の増加（増加率3.5%）となっています。

一般世帯についてみると世帯数は31,980世帯、世帯人員は91,169人で、1世帯当たりの人員は2.71人となっています。

平成17年から22年までの5年間に、一般世帯数が1,609世帯の増加（増加率4.8%）であったのに対し、世帯人員は985人の減少（減少率1.1%）であったため、1世帯当たりの人員は0.17人減少し、世帯規模の縮小化が進んでいます。（図-6、第1表、第7表参照）

図-6 1世帯当たり人員



家族類型別世帯数 ～核家族は一般世帯の65.5%～

一般世帯を家族類型別にみると、親族世帯は25,895世帯（一般世帯の77.1%）、非親族世帯223世帯（一般世帯の0.7%）、単独世帯は7,471世帯（一般世帯の22.2%）になっています。

親族世帯のうち、核家族世帯は21,989世帯で、一般世帯の65.5%を占め、前回調査と比べると894世帯増加（増加率4.2%）となっています。（第7表参照）

高齢者のいる世帯数 ～高齢者の1人暮らし増加～

65歳以上の高齢者のいる一般世帯は、12,570世帯で一般世帯の37.4%を占めており、約3世帯のうち1世帯が65歳以上の高齢者のいる世帯になります。

また、このうち高齢者の一人暮らし（単独高齢者世帯）は2,312世帯（高齢者のいる一般世帯の18.4%）となっており、前回調査の1,730世帯と比べて582世帯の大幅増加（増加率33.6%）となっています。（第7表参照）

(2) 亀岡市町別・地域別世帯数

町別世帯数 ～東つつじヶ丘で高い世帯増加率～

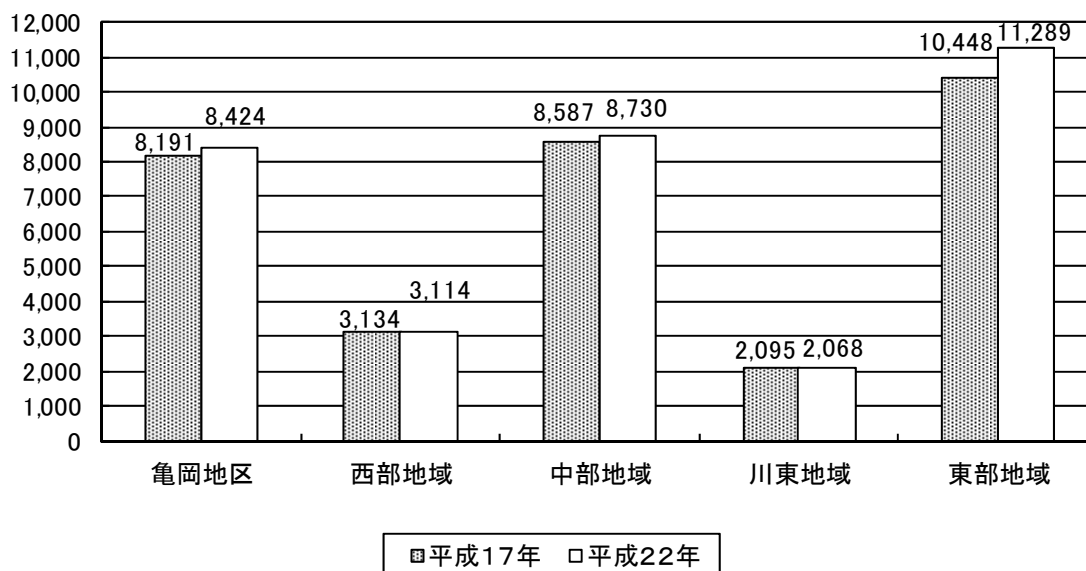
世帯数を町別にみても、亀岡地区で8,424世帯と最も多く市全体の4分の1を占めています。次いで篠町の6,637世帯、大井町の3,215世帯と続いています。

地域別にみると、東部地域が最も多く11,289世帯で市全体の3分の1を占めています。

前回調査と比較すると、亀岡地区、中部地域、東部地域で増加しており、東部地域で増加率8.0%と最も高い伸びがみられます。特に東つつじヶ丘では、10.0%と伸びが目立っています。

1世帯当たりの人員は、河原林町が3.8人と最も多く、本梅町、馬路町、旭町が3.2人と続いています。最も少ないのは、亀岡地区の2.4人で、東別院町、西別院町、曾我部町、吉川町、畑野町の2.6人という結果になっています。(図-7、第15表、第18表、第22表参照)

図-7 亀岡市地域別世帯数



【参考】

地域区分

亀岡地区・・・亀岡地区

西部地域・・・東別院町、西別院町、本梅町、宮前町、畑野町、東本梅町

中部地域・・・曾我部町、吉川町、蔦田野町、大井町、千代川町

川東地域・・・馬路町、旭町、千歳町、河原林町、保津町

東部地域・・・篠町、東つつじヶ丘、西つつじヶ丘、南つつじヶ丘

3 住 居

持ち家に住む世帯は住宅に住む一般世帯の77.5%

住宅に住む一般世帯は33,292世帯（平成17年 31,625世帯）で、このうち、持ち家に住んでいる世帯は25,799世帯（住宅に住む一般世帯の総数の77.5%）、公営・都市再生機構・公社の賃貸住宅1,279世帯（同 3.8%）、民営の賃貸住宅5,436世帯（同 16.3%）、給与住宅467世帯（同 1.4%）、間借りをしている世帯300世帯（同 0.9%）となっています。

平成17年と比べると、持ち家に住んでいる世帯は1,300世帯増加（増加率5.3%）、民営の賃貸住宅333世帯増加（増加率6.5%）、給与住宅54世帯増加（増加率13.1%）、間借りをしている世帯11世帯増加（増加率22.4%）、公営・都市再生機構・公社の賃貸住宅31世帯減少（減少率2.4%）となっています。（図－8、第23表参照）

図－8 住居の種類別世帯構成比の比較



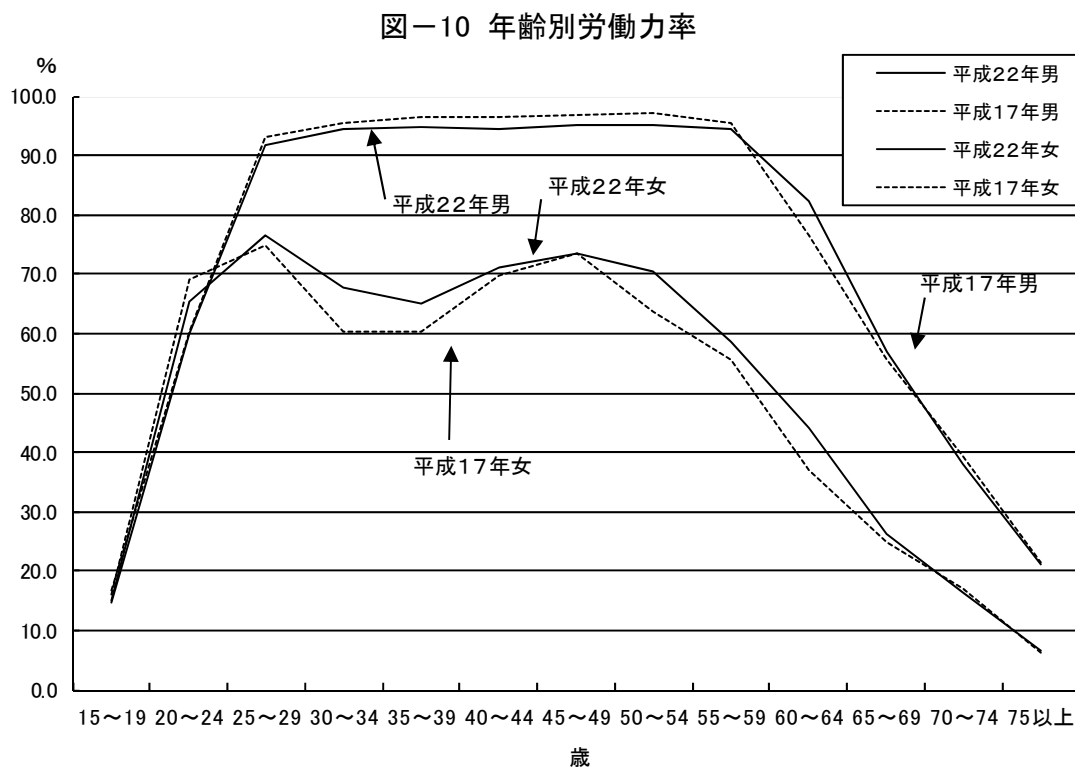
□持ち家 ■公営・都市機構・公社の借家 □民営の借家 ■給与住宅 ■間借り

4 労働力 労働力率60.2%

15歳以上人口78,818人のうち、労働力人口は47,424人で労働力率は60.2%となっており、前回調査に比べて682人（減少率0.9%）減少しています。内訳をみると、44,729人（94.3%）が就業者、2,695人（5.7%）が完全失業者となっています。非労働力人口は、15歳以上人口の37.4%を占める29,484人という結果になっています。

労働力について男女別にみると、男性と女性で大きな違いがみられます。男性は、逆U字型といわれる曲線を描き、25歳から59歳まではいずれも90%を越える高い比率を示しています。

女性は、M字型といわれる曲線を描いており、子育て期である30代前半で下降し、その後再び上昇、下降しています。（図-10、第25表参照）



注：労働力人口は、収入を得ることを目的とする仕事をしている人（就業者）と、仕事はしていないけれども仕事を探している人（失業者）の合計をいう。

労働力率は、労働力人口÷15歳以上人口×100で表し、労働力人口に対応する年齢階級人口に対する比率をいう。

15歳以上人口は労働力状態不詳が含まれているため、労働力人口と非労働力人口の合計と一致しない。

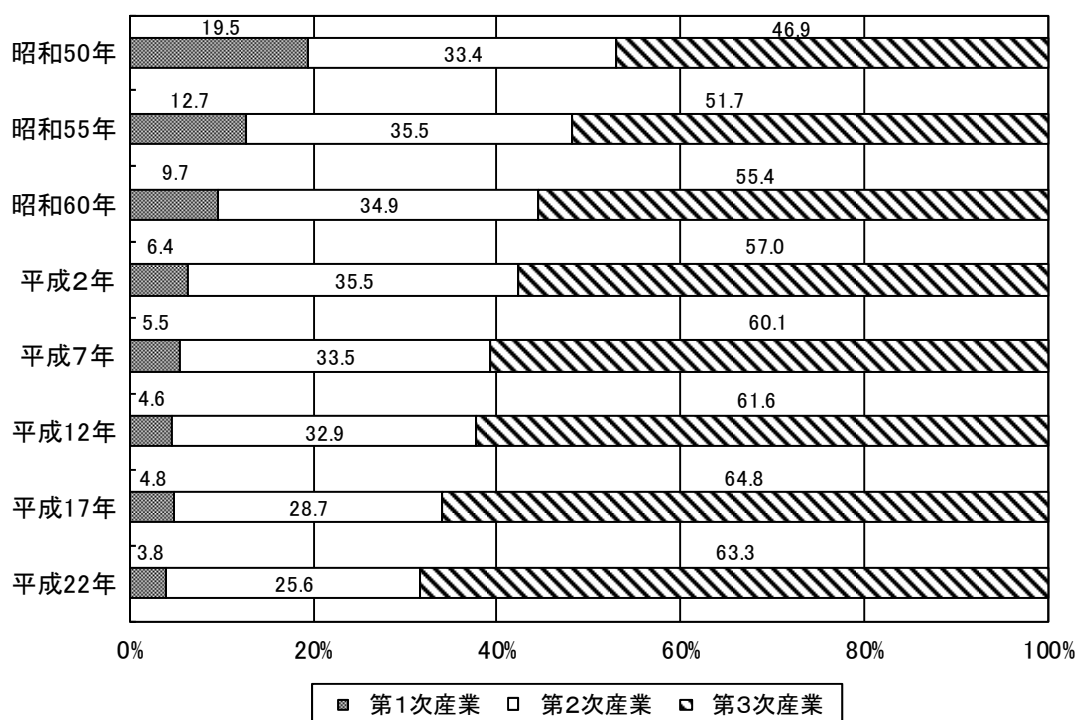
5 産業別就業者数 第3次産業が63.3%

就業者44,729人を産業大分類別にみると、製造業の就業者が最も多く8,432人、次いで卸売・小売業の7,193人、医療・福祉の4,845人となっています。

また、産業3部門別にみても、第1次産業で1,718人（3.8%）、第2次産業で11,457人（25.6%）、第3次産業で28,236人（63.3%）となっています。

第1次産業は、昭和45年には3人に1人の割合で就業していましたが、30年後の平成12年には、約20人に1人の割合となり大幅に減少しています。（図-11、第26表、第27表参照）

図-11 産業別就業者数構成比率の推移



注：第1次産業…農業、林業、漁業

第2次産業…鉱業、建設業、製造業

第3次産業…卸売業・小売業・飲食店、金融・保険業、不動産業、運輸・通信業、電気・ガス・熱供給・水道業、サービス業、公務

就業者数は分類不能が含まれているため、産業3部門別就業者の合計と一致しない。

6 人口集中地区（DIDs）

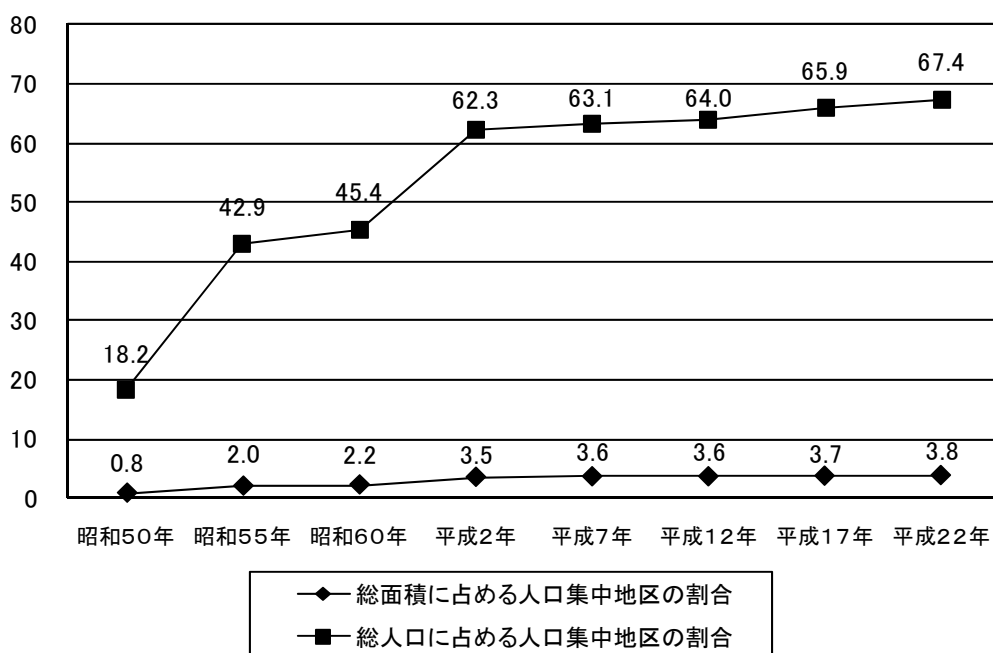
総人口の67.4%が人口集中地区に居住

本市の人口集中地区の**人口は、62,239人、面積8.50km²**となりました。

それぞれ、総人口の67.4%、総面積の3.8%を占めています。

昭和40年に本市で初めて人口集中地区が設定されて以来、増減率は、40～45年25.8%、45～50年△1.7%、50～55年181.7%、55～60年16.1%、60～2年53.7%、2～7年9.7%、7～12年3.9%、12～17年2.3%、17～22年0.5%と推移しています。（図-12参照）

図-12 総人口・総面積に占める人口集中地区の割合



区 分		昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口集中地区面積 (km ²)		1.9	4.6	5.0	7.9	8.0	8.1	8.4	8.5
人口集中地区内人口		10,570	29,775	34,571	53,147	58,303	60,548	61,911	62,239
人口集中地区内人口密度		5,563.2	6,472.8	6,914.2	6,727.5	7,287.9	7,438.3	7,370.4	7,322.2
総数に占める割合 (%)	面積	0.8	2.0	2.2	3.5	3.6	3.6	3.7	3.8
	人口	18.2	42.9	45.4	62.3	63.1	64.0	65.9	67.4

7 昼間人口及び通勤・通学人口

昼間人口 ～常住人口の85.8%～

亀岡市の昼間人口は、79,270人となり前回調査に比べると、179人（減少率0.2%）減少しています。

昼夜間人口比率（常住人口100人当たりの昼間人口の割合）は85.8%となり、前回調査と比べるとわずかに（0.6%）比率は高くなっているものの、年々比率は低くなっており、亀岡市への流入人口よりも、亀岡市から流出する人口の割合が増えていっていることがわかります。

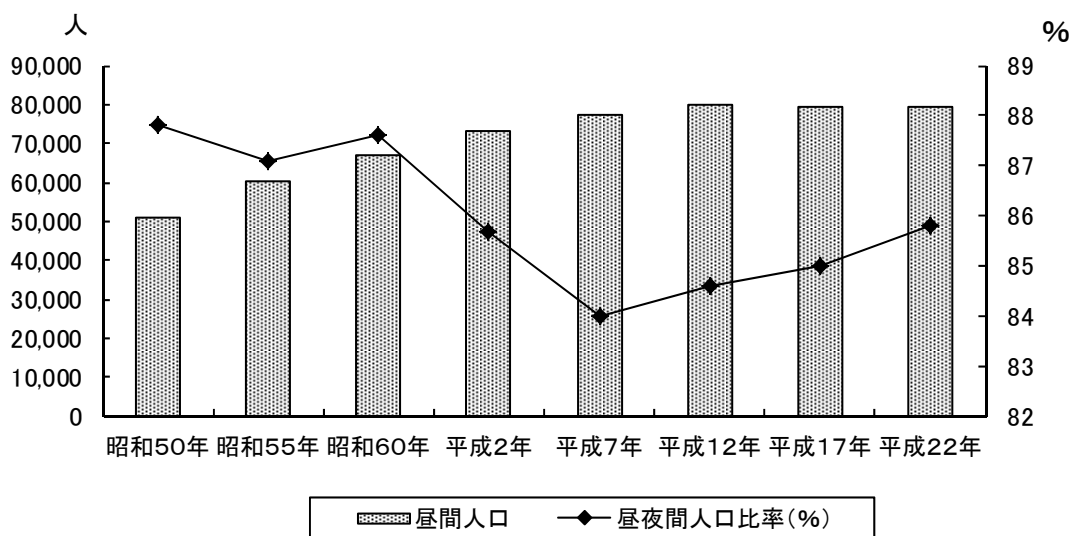
（図-13、第28表参照）

区 分		昭和 50年	昭和 55年	昭和 60年	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 17年	平成 22年
常 住 人 口 〔夜間人口〕 (A)		58,171	69,397	76,205	85,195	92,317	94,415	93,304	92,399
流 出 人 口	総数 (B)	10,986	13,602	15,461	19,666	23,547	23,597	23,378	21,620
	通勤	9,510	12,068	13,613	16,561	19,422	19,542	19,474	17,966
	通学	1,476	1,534	1,848	3,105	4,125	4,055	3,904	3,654
流 入 人 口	総数 (C)	3,866	4,669	6,032	7,480	8,801	9,051	9,523	8,491
	通勤	2,752	3,405	4,610	5,604	6,516	7,107	7,605	7,092
	通学	1,114	1,264	1,422	1,876	2,285	1,944	1,918	1,399
昼間人口(A)-(B)+(C)		51,051	60,464	66,776	73,009	77,571	79,869	79,449	79,270
昼夜間人口比率(%)		87.8	87.1	87.6	85.7	84.0	84.6	85.2	85.8

注：常住人口〔夜間人口〕は、年齢不詳を含まない。

$$\text{昼夜間人口比率} = \text{昼間人口} \div \text{常住人口〔夜間人口〕} \times 100$$

図-13 亀岡市の昼間人口及び昼夜間人口比率



通勤・通学人口 ～流出人口は流入人口の2.5倍～

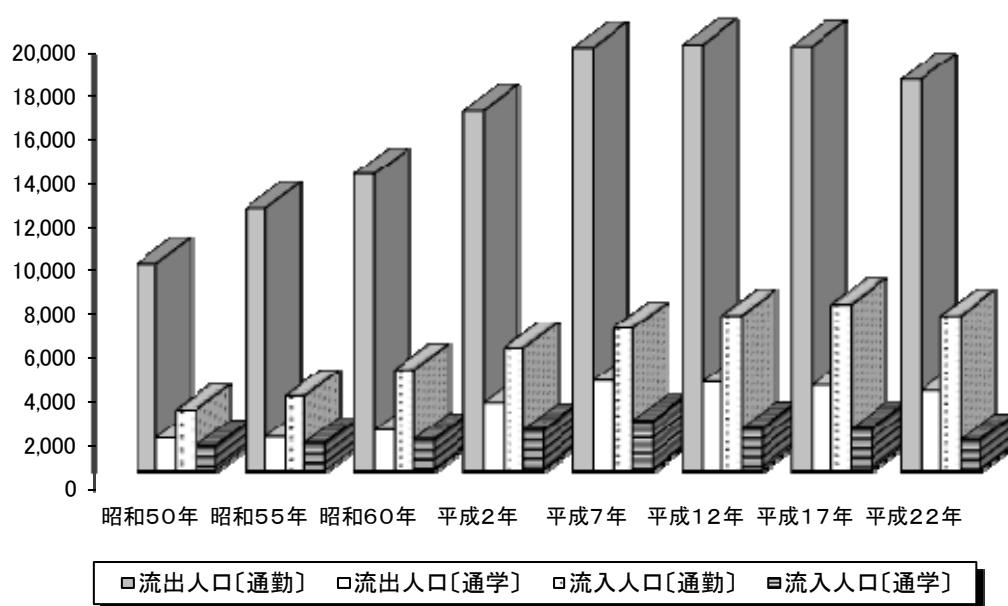
亀岡市を従業地・通学地として他市区町村から流入する人口は、8,487人（内、京都府内他市区町村に常住している人は、6,692人・京都府外に常住している人は、1,795人）となっています。

亀岡市を従業地・通学地として通勤通学している人の常住地で多いのは、京都市（3,241人）・南丹市（2,068人）・京丹波町（427人）・長岡京市（260人）・向日市（220人）となり、この4市1町で全体の約93%を占めています。

また、亀岡市に住んでいて、亀岡市外で通勤・通学するため流出する人口は、23,710人（内、京都府内他市区町村で、従業・通学している人は18,144人・京都府外で従業・通学している人は3,264人）となっています。

亀岡市に常住している人の従業地・通学地で亀岡市以外で多いのは、京都市（12,830人）・南丹市（3,438人）・長岡京市（449人）・京丹波町（351人）・向日市（273人）となり、この4市1町で全体の約96%を占めています。（図-14、第28表、第29表、第30表参照）

図-14 流出流入人口



8 人口移動

亀岡市在住の16%が5年間に住所を移動

総人口に占める5年前の常住地別の割合をみると、5年前に現住所以外の「国内」に住んでいた人は16.7%、「国外」からの転入者は0.2%などとなっており、5年前は「現住所」以外に住んでいた移動人口は16.9%となっています。一方、5年前も「現住所」に住んでいた人は83.1%となっています。

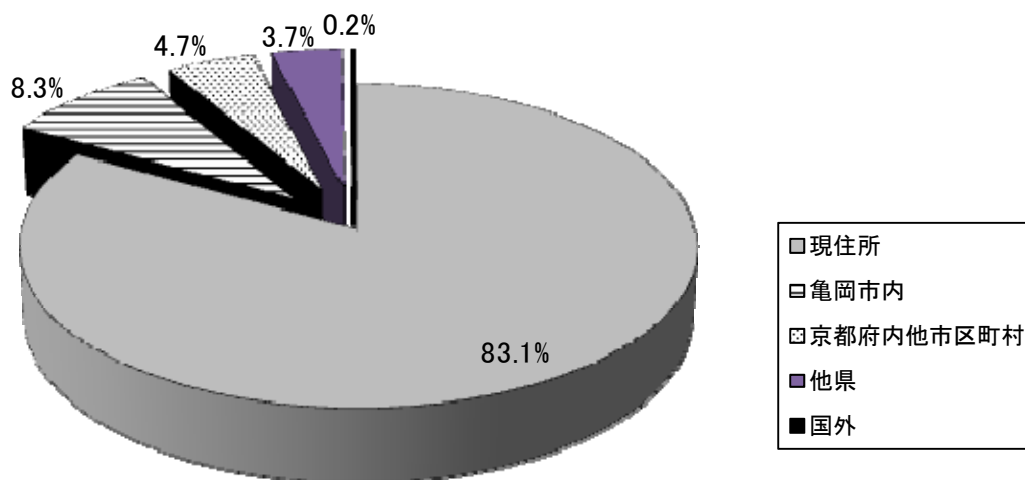
移動人口についてみると、「亀岡市内」が8.3%と最も高く、次いで「京都府内市区町村」が4.7%、「他県」が3.7%、「国外」が0.2%となっています。

男女別にみると、男性が男性人口の17.1%、女性が女性人口の16.7%となっています。

平成12年と比較するため5歳以上人口についてみると、5歳以上人口に占める移動人口の割合は、22年は16.9%となり、平成12年の22.0%に比べ低下しています。

注：5年前の常住地は大規模調査のみの調査項目。平成12年調査までは5歳以上の人口のみを集計していたが、平成22年調査から、5歳未満の者についても、出生後ふだん住んでいた場所を5年前の常住地とみなして集計している。

図-15 5年前の常住地



5年前の常住地、男女別人口（平成12年・平成22年）

		総数※	現住所	現住所以外（移動人口）					
				国内	現住所以外（移動人口）			国外	
					亀岡市内	京都府内他市区町村	他県		
実数 (人)	平成22年 総数	92,399	72,880	14,816	14,611	7,276	4,114	3,221	205
	男	44,889	35,160	7,257	7,165	3,369	2,011	1,785	92
	女	47,510	37,720	7,559	7,446	3,907	2,103	1,436	113
	(再掲)5歳以上人口 総数	87,976	69,815	14,230	14,030	6,946	3,939	3,145	200
	男	42,574	33,595	6,961	6,871	3,206	1,918	1,747	90
	女	45,402	36,220	7,269	7,159	3,740	2,021	1,398	110
	平成12年5歳以上人口 総数	89,784	69,990	19,794	19,642	9,123	5,497	5,022	152
	男	43,977	33,977	10,000	9,932	4,465	2,602	2,865	68
女	45,807	36,013	9,794	9,710	4,658	2,895	2,157	84	
割合 (%)	平成22年 総数	100.0	83.1	16.9	16.7	8.3	4.7	3.7	0.2
	男	100.0	82.9	17.1	16.9	7.9	4.7	4.2	0.2
	女	100.0	83.3	16.7	16.4	8.6	4.6	3.2	0.2
	(再掲)5歳以上人口 総数	100.0	83.1	16.9	16.7	8.3	4.7	3.7	0.2
	男	100.0	82.8	17.2	16.9	7.9	4.7	4.3	0.2
	女	100.0	83.3	16.7	16.5	8.6	4.6	3.2	0.2
	平成12年5歳以上人口 総数	100.0	78.0	22.0	21.9	10.2	6.1	5.6	0.2
	男	100.0	77.3	22.7	22.6	10.2	5.9	6.5	0.2
女	100.0	78.6	21.4	21.2	10.2	6.3	4.7	0.2	

※ 実数については、5年前の常住地「不詳」を含む。